

第16期事業報告

2019(令和元)年10月1日から2020(令和2)年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

I. 事業の成果

これまで当法人ではモンゴルおよびタイに関連し国内外で様々な活動を行って来たが、組織体制の変更に伴い今年度は、タイ関連は行わず、モンゴル関連のみとなった。2016年9月にスタートしたJICA草の根技術協力事業「モンゴルにおける障害児療育・教育支援及び療育関係者育成事業」が2019年8月に終了し、12月にJICA東京にて終了報告会を行った。JICAに提出した事業報告書とは別に、モンゴル国内での活用を期待し、モンゴル語版の報告書を作成した。事業期間内に完成を予定していた草の根手帳は、専門家の指導、翻訳、書き込み作業が漸く終了した。草の根事業で支援した2地区の療育センター（ゲゲーレンとサインナイズ）では引き続き療育活動を継続している。この活動を維持継続するため当法人として引き続き経済的支援を行った。また、二つのセンターにトイレとシャワーを設置するためにクラウドファンディング「モンゴルの障がい児センターにきれいな水とトイレを！」は11月に工事が完成し現地に引き渡された。

年が明け2020年2月から世界的に新型コロナウイルス感染が拡大し、我が国およびモンゴル国も出入国が禁止となり、外出自粛、各種イベント等の中止を余儀なくされ、当法人の活動も大きく制限された。まず、ゴールデンウィーク前後に予定していたモンゴルへの専門家派遣が中止となり、更に8月に予定していた交流ツアーも中止となった。一方、報告会を兼ねたチャリティーコンサートは、感染予防のため無観客オンラインライブコンサートとして実施した。同時に行った報告会ではモンゴルの現地とオンラインで繋ぐことで、昨年完成した障がい児用トイレを見学し、現地リーダー達の声を直接聞くことが出来た。昨年モンゴル・ウランバートル市に建設された国立障がい児リハビリテーション開発センターは、モンゴル国の障がい児を本格的に療育するセンターとして運用が開始された。しかし、人材不足や経験不足から課題が多く、現場からの要請を受け当法人としても支援することとし、手始めにオンラインによる障がい児療育の講義が始まった。

11月から事務所が武蔵野市に移転をした。事務局では担当者が都合で退任したため、事務力が低下したが、新型コロナウイルス感染拡大のため多くの活動が中止となり、また会議をオンラインで行うなど事務量は比較的少なく対処ができた。

II. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業						
(1) モンゴル障がい児療育支援事業						
(ア) JICA 草の根技術協力事業継続事業						
ア. 専門家派遣	中止					
イ. 現地での日常活動	現地補助員が2か所の障がい児センターを訪問して活動（読み聞かせや、給与・交通費の支払い等）	10月1日 ～ 9月30日	モンゴル国、ウランバートル市	8人	障がい児医療従事者：約60人 障がい児・者と家族：約100人	313
ウ. 国内での活動	Facebookによる連携、教材開発他					
(イ) 国立障がい児リハビリテーション開発センター支援事業						
ア. 専門家講義	ZOOM 会議による講義					
イ. 現地での日常活動	なし	10月1日 ～ 9月30日	モンゴル国、ウランバートル市	8人	障がい児医療従事者：約30人 障がい児・者と家族：約100人	10
ウ. 国内での活動	Facebookによる連携、教材開発他					
(2) その他のモンゴル障がい児療育支援事業						
ア. 専門家の訪問	中止	<u>4月～5月</u>	モンゴル国、ウランバートル市	0人	障がい児・者と家族：0人	0
イ. クラウドファンディング	現地工事の進行チェック 完成確認	10月1日 ～ 9月30日	モンゴル国、ウランバートル市	6人	障がい児医療従事者：約60人 障がい児・者と家族：約100人	75

イ. 車いす支援	渡航中止のため支援できず 国内不要車いすを倉庫に保管	10月 ～9月	杉並区、ウラン バートル市、	1人	モンゴル国の 障がい児・者と家 族：0人	0
ウ. 活動報告会	事業の報告会を開催し、あわ せてモンゴル音楽を聴いた。	6月14日	東京都新宿区	10人	一般市民：多数	244
エ. 支援事業の 運営	上記事業および交流ツアー などを含めモンゴル関係者 との連絡・調整を行った。	年間	ウランバートル市、東京都武 蔵野市	4人	障がい児・者と家 族：約100人	0
2. 海外の障がい児・者等との交流事業						
(1) モンゴルへの研修・交流ツアーの企画実施						
ア. モンゴル交 流ツアー	中止	8月	モンゴル国	0人		0
3. 啓発事業						
(1) セミナー等の 開催	実施なし					0
4. 文化交流事業						
	モンゴル支援事業報告会を もってあてた。					0
5. 情報提供事業						
	HP、ブログ等の発行により 情報を発信。HP リニューアル 作業	随時	法人事務所	2人	一般市民： 不特定多数	10

Ⅲ. 事業の報告

(1) 海外との協力事業---モンゴル障がい児療育支援事業

(ア) JICA草の根事業の継承事業

2019年8月に草の根事業が終了した。9月以後もサインサイズセンターとゲゲーレンセンターでは、引き続き草の根の日を継続することとなり、当法人として以下の支援を行った。毎週土曜日に行われる草の根の日のランチ代を負担した。月に1回、PT協会に所属するPTを派遣し、モンゴル医科大学理学療法士養成学科の4年生有志をボランティアとして参加させた。また、草の根事業の療育セミナー及び実習の修了生を派遣した。草の根事業で3年間現地補助員として療育指導を行ってきた看護師を派遣した。2019年は草の根の日活動は順調に開かれていたが、2020年1月末に、新型コロナウイルス感染症の国内蔓延を防ぐために、モンゴル国は国境を封鎖して、あらゆる教育機関も同時に閉鎖した。これに伴って、2つのセンターでも草の根の日に集まれなくなり、エンジンの支援も中断することになった。2020年9月から学校、幼稚園に子ども達が通学できるようになり、2センターも草の根の日を徐々に再開したので、ランチ代の負担を行なった。しかし療育支援メンバーの参加は復活できなかった。地方で障害児を育てている親が活用するために草の根チームメンバーが執筆した報告書をこの秋に出版する予定で準備を進めた。また、事業終了後、親達が我が子の成長記録を確認し、モンゴル人療育関係者につなぐ目的で作成した「草の根手帳」に記録を書き込み、2つのセンターに渡した。今年度は、2センターへの渡航指導を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため中止を余儀なくされた。モンゴルの風コンサートでは2つのセンターのリーダーとオンラインで会話をし、親子が家庭で健康に過ごしている様子を確認することができた。

(イ) 国立障がい児リハビリテーション開発センター支援事業

昨年モンゴル・ウランバートル市に建設された国立障がい児リハビリテーション開発センターは、モンゴル国の障がい児を本格的に療育するセンターとして運用が開始された。しかし、人材不足や経験不足から課題が多く、現場からの要請を受け当法人としても支援することとし、手始めにオンラインによる障がい児療育の講義が始まった。

- 第1回 日時 9月11日
- テーマ「障がい児の骨折と予防」
- 演者 城良二（理事長）
- 通訳 ヒシゲー（同センター療育部長）
- 参加者 整形外科医等 15名

また、同センターから様々な療育関連相談があり、障がい児の水泳指導書を提供した。更に、障がい児摂食用具を日本から送付した

(ウ) その他のモンゴル障がい児療育支援事業

① 専門家の訪問

1. 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため渡航が困難で実施できなかった。

② クラウドファンディング

前年度に実施したクラウドファンディング「モンゴルの障がい児センターにきれいな水とトイレを！」では、工事が前期の年度内に終了せず、今期11月に完成した。現地では、完成式典を執り行った。

③ 車いす支援

例年、専門家の渡航および交流ツアーの際に国内で不要になった小児用車椅子等をモンゴル航空の協力で運搬しているが、今期は新型コロナウイルス感染拡大のため、専門家の渡航および交流ツアーが中止となり、運搬できなかった。運搬再開に向け車椅子等を収集している。

(ア) 車いす提供：杉並区立こども発達センター

(イ) 保管場所：理事長宅

④ 事業報告会の開催

モンゴル支援事業への理解者・支援者を増やすことを目的として、モンゴル音楽家の協力を得て無観客のオンラインコンサートを開催し、第2部として実施した事業報告会と併せてユーチューブによりオンライン配信した。報告会では、ズーム(ZOOM)によってクラウドファンディングによる整備対象施設からも代表者等に参加してもらい、現地の喜びの声を支援者に直に届けることが出来た。

実施日時：2020年6月14日(日)16:00~18:00

会場：ルーテル市ヶ谷センター(東京・新宿区)

報告会：

司会 城 良二(理事長)

報告者 梅村 浄・草の根事業リーダー(会場報告)

諸石真理子・草の根事業PT担当(会場報告)

松本直子・クラウドファンディング中心者(ズーム参加)

アルタントルフル・サインナイズセンター責任者(ズーム参加)

オヤンガー・ゲゲーレンセンター責任者(ズーム参加)

コンサート

演奏：イフタタラガ(モンゴル伝統音楽グループ)

視聴者：1,151名(11月1日現在)

(エ) 支援事業の運営

上記の支援事業を円滑に運営するために、年間を通して事務局、現地協力者と連絡を取った。

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル交流事業

例年夏にモンゴルの障がい児に車いすを届ける旅として交流ツアーを続けてきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、モンゴルへの渡航が中止となり、交流ツアーも中止となった。

3. 啓発事業

- (1) アジア諸国の障がい児・者及び少数民族支援等に関する啓発セミナー等の開催
実施なし

4. 文化交流事業

- (1) モンゴル文化紹介
モンゴル支援事業報告会をもってあてた。

5. 情報提供事業

- (1) インターネットによる情報提供
ホームページおよびブログ他による情報発信。
ホームページのリニューアルした。
- (2) Eメールニュース（「ニンジン・アップデート」）の発行はできなかった。

6. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

会員数	(2020年9月30日現在)
個人正会員	22人(23口)
団体正会員	0人
個人賛助会員	20人(20口)
団体賛助会員	3団体(4口)

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催 (年1回)

日 時：2019年12月24日(土) 13:30~16:45

会 場：中央区女性センターブーケ 21 研修室 1

イ. 理事会の開催 (年2回)

ウ. 運営委員会の開催 (12回開催)

理事および会員有志からなる運営委員により、事業実施の詳細を決め実施した。
4月以降は、新型コロナウイルス感染拡大のため、オンライン会議で行った。

(3) 財源の確保

大口の財源は獲得できず、会員の会費および個人の寄付に依存している。

(4) 事務局運営の改善

事務局が移転し、事務員不在となり役員のボランティアにて活動を維持している。。

(5) ニンジン・サポーターズ倶楽部

新型コロナウイルス感染拡大のため、物品の販売する機会は限定的であった。